

夫婦の「かすがい」になる!?

庭の音環境

ランドスケープ
×
サウンドスケープ

私たちはなぜ、小川のせせらぎや波の音、虫の声などの自然の音を聞くとやすらぎを覚えるのでしょうか。「サウンドスケープ」は、「目で見える風景」に対して「耳で聞こえる風景」を意味する言葉。音が人々の生活において担う文化的意味や役割に着目し、居心地のよい環境を設計するうえで注目されている考え方です。

「音」の観点から、夫婦円満の空間づくりについて考えてみました。 ※本内容は、LIXIL社のエクステリア製品の性能、機能に言及したものではありません。



意識されることなく脳に届いている、音の存在。

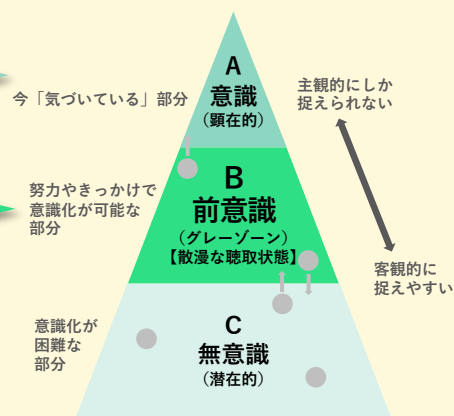
右図は人が音を認識するときのメカニズムを説明したものです。

Aの部分は、人の声やテレビの音、音楽など音として意識して捉えている部分。対してBの「前意識」という部分は聞こえているけれど意識して聞いてない部分。風の音、鳥の声、葉の擦れる音など、意識していなくても脳に届いていて、心地良さを感じて脳波が変化するというデータもあります。自然の音の多くがこれに属します。

自然の音の中でも水音や葉擦れ音は、周波数や大きさ、強さ、リズムなどの物理的な側面で、とても多様で複雑な構造をしており、それが心地よさを生み出すメカニズムだと言われています。

Aに分類される音(例)
・人の声
・テレビの音
・音楽 など

Bに分類される音(例)
・風の音
・川のせせらぎ
・葉の擦れる音 など

音の意識と知覚過程
(意識と前意識のバランス)

出典：
下条信輔「意識とは何だろうか」P196(講談社,1999年)(一部改変)

植物が音をまるやかにしてくれる。

自然の音は不快な騒音を包み込み緩和させる働きがあり、心を穏やかにすると考えられています。

庭園の静けさについて、ある実験があります。

右図のような配置で①杉苔のある地面、②杉苔のない石畳の2ヶ所の吸音特徴を測定。その結果、杉苔は不快に感じやすい中～高音域の周波数を吸収しやすいことがわかりました。

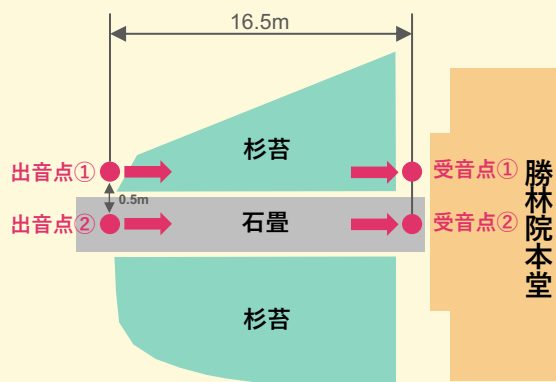
立体的な葉形状で表面積の広い苔や芝には、吸音効果があり聞こえる音をまるやかに変える効果があると考えられます。

音の効果を庭に取り入れて、夫婦円満に。

樹木の種類や選定方法によっても葉の擦れる音や風音の響きも変わってきます。また、同じ音でも、人によって、場所によって、心理状態によって、感じ方が異なるのは言うまでもありません。「心地よい」という感覚は、積み重ねた経験や記憶によって人それぞれだからです。

庭の静けさを形成する要因

(京都精華大学 小松正史教授の実験より)



出典：日本造園学会関西支部大会発表(2013年)レジュメより(一部改変)

庭はまさにサウンドスケープにあふれた空間。「昔2人で河原を散歩したことを思い出し、庭に砂利を敷いてみた」というご夫婦もいるようです。お子さんが成長したら、遊び場としての庭からご夫婦の憩いの場へ、時の流れによって役割を変える庭。その時、夫婦の思い出の音や好みの音を前意識にインプットできるよう、庭の音をデザインしてみるのも良いのではないのでしょうか。パートナーの声も心地よく聞こえるかもしれません。



(編集協力)

環境音楽家 小松正史 教授

背景音プロデューサー / 博士(工学) / 京都精華大学ポピュラーカルチャー学部(音楽コース)教授、京都芸術大学文明哲学研究所客員教授。大阪大学大学院(工学研究科・環境工学専攻)修了。音楽だけではなく「音」に注目し、それを教育・学問・デザインに活かす。学問の専門分野は、聴覚生態学と音響心理学。環境音楽の制作、映像作品への楽曲提供や音楽監督、公共空間の音環境デザインなどを手がける。